

兵庫県医師会医療支援チーム（第39陣）「宮城県災害支援現地報告」

西宮市医師会 下永田 剛

6月7日のお昼12時に石巻中学校に到着し、先発隊の福井先生（神戸市医師会）のお出迎えを受けるとともにエリア4全体の状況説明を受けた後、医師、看護師および事務局各々が申し送りを受けた。福井先生によれば、ここ数日間は、避難者の減少と地元医療機関への受診者数の増加に伴い、当該診療所への受診者数は減少しており、引き続き、積極的に近隣医療機関への患者誘導を実施してほしいとの申し送りを受けた。

三日間を通じて、午前中の診療は石巻中学校と山下中学校で行い、午後は住吉中学校への巡回診療のみであり、当初巡回診療を実施していた山下小学校、図書館および公民館に対しては原則電話対応のみであった。エリア4における救護活動も整理縮小が十分可能な状況になっているとの認識を持った。

初日の午後6時、石巻日赤での全体ミーティングに出席した。日赤本部からの通達としてエリア4を含む北上川の西部地域においては、地元医療機関の再開に伴い受診者数は減少しているため、各医療チームは診療所の整理縮小を図っていただきたいとの要望があり、我々からは、6月18日をもって救護活動を終了する予定であり、今回、『兵庫県医師会救護活動終了のお知らせ文』を持参したことを伝達し、了解を得た。

三日間を通じて受診者数は1日合計10人程度と少数であったが、受診者の中に、PTSDを示唆させる心氣的訴えを有する方が多く、さらに、避難者にいわゆる社会的弱者が散見され、今後は、精神面ならびに行政面でのサポートに軸足を移行させていくべきと考えられた。

